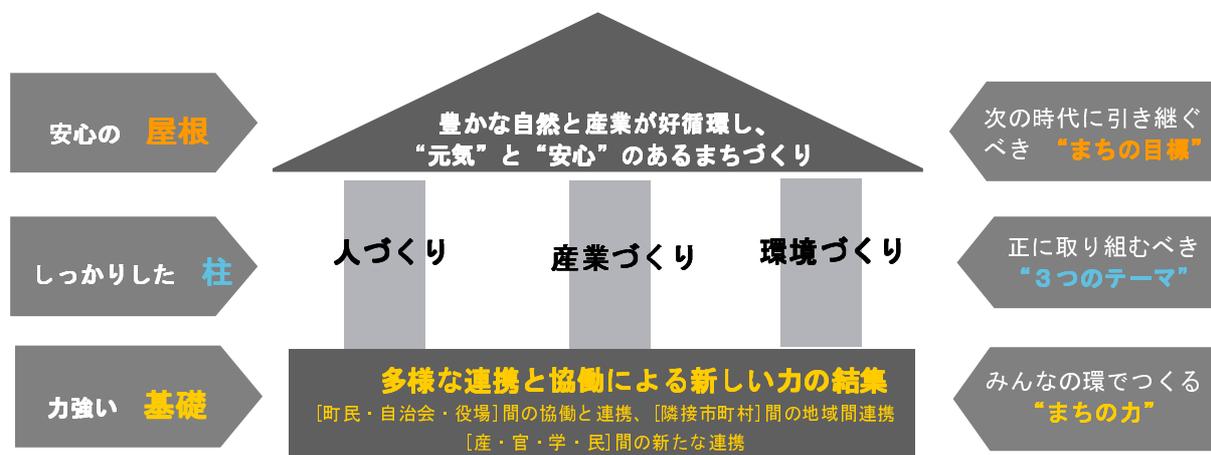


## Ⅲ章 基本的な取組みと「協働」のまちづくり

一人があつて、産業があつて、環境があつて、まちがつくられますー

時代の潮流を踏まえながら、本章は、「人づくり」、「産業づくり」、「環境づくり」を柱として、将来に向けての基本的な取組みを定めることを目的としています。



### 1 人づくりへの取組み

#### (1) 人づくりの課題

豊浦町の65歳以上の人口は30%を超え、既に20年後の我が国全体の姿を映し出しています。その中で農水産業の担い手の確保は、本町の最大の課題です。

21世紀の日本そして世界を支えるのは農業と漁業です。これからは農業と漁業が、若い人たちにとって魅力的な就業の場としていかなければなりません。

そのためにも、多様な連携などにより、1次産業を基盤とする産・官・学・民が協働して取り組み、次の世代に向け自ら生み出す力（創出力）を養う人づくりが大切になってきます。あわせて、女性や高齢者の参画を積極的に行い、地域の知恵の踏襲や活力の再編を行うための人的風土を醸成する仕組みづくりが求められます。

#### (2) 人づくりの基本的な取組み

①

##### 次代を担う「人」づくり



■ 地域への意識改革や高度な研修・教育体制の整備と、システムの充実などにより、後継者はもとより、都会の定年退職者を含む新規参入者など、農水産業を支える担い手として、意欲と能力のある人材の育成・確保を図ります。また、女性が経営や地域活動への参画を推進し、女性の能力の発揮に努めるとともに、高齢者の知恵や技術を活かせるよう、活躍の場づくりを進めていきます。また、未来を担う子供たちについては、健康な体づくりを第一に、スポーツなどを重点に取り組み、さらに積極的に人の輪に入っていくことができ、ふるさとに誇りを持ち国際的にも通じる豊かな感性を育む教育環境を創っていきます。

### 多様な担い手を確保する環境づくり

- ・ 地域に開かれた大学との連携による青年農水産業者や新規就業希望者に対する研修・教育体制の充実
- ・ 学校教育や農水産業体験学習などを通じた、農業・農村、漁業・漁村に対する理解の促進
- ・ 定年退職者や自給的農水産業者を含めた多様な新規参入者を受け入れるための、地域における意識改革や情報発信の推進
- ・ 後継者やUターン希望者の就業を促進するための地域や学校、家庭内における就業の動機付けなどの推進
- ・ 農地や農業機械・施設の確保、漁場や港の拡充など円滑な新規就業の促進に向けたシステムづくり
- ・ 農家や漁家の経営資産の円滑な継承

### 女性や高齢者の能力を発揮

- ・ 農水産業や農漁村の活性化に向けた、女性グループなどの地域活動の展開
- ・ 経営や社会活動に参画しやすい環境づくり
- ・ 高齢者の技能や豊富な知識、経験などを活かした農水産物の生産や地域活動の展開

### 未来を担う健康で創造的な子供たちの育成

- ・ 幼、小、中の連続性を重視し、実態や地域に即した特色ある一貫教育の推進
- ・ 地域と連携し、地域・保護者の信頼に応える学校づくり
- ・ 子育て支援活動の推進と、幼稚園と保育所の連携
- ・ 英語などの外国語教育や国際理解、異文化理解教育の推進
- ・ 地域自然環境や、人材などを生かした環境教育の推進
- ・ 体験学習、食育や木育など地域の産業や風土と連携した教育の推進

②

町の産業を支える  
経営体や組織の育成



■ 認定農水産業者や農水産業生産法人の育成と、これら担い手への農地や漁場の利用集積を図るとともに、経営の実情に応じた新たな作物や家畜、栽培、漁業の導入、農水産物の加工や直接販売といったビジネスの取り組みなど、農水産業者の創意工夫を活かした経営の複合化や多角化、豊浦の実態に即した経営安定のための諸制度の施行などを進め、農水産業を支える経営体の体質の強化と安定を図ります。

また、農水産業の持続的な発展に向け、経営を支援する組織の積極的な育成などにより、全体としての農水産業のシステムづくりを進めます。

認定農水産業者や農水産業生産法人等の積極的な育成

- ・ 認定農水産業制度の適切な運用などによる農水産業の担い手の育成
- ・ 新しい農水産業や町づくりを先導するリーダーの育成
- ・ 農水産業生産法人の設立に向けた意識の啓発や相続・指導体制の充実など法人化の積極的な推進
- ・ 経営管理能力の向上や人材の育成確保、多角化の推進など法人経営の発展・強化
- ・ 農水産業の核となる農水産業生産法人の機械施設整備や自己資本の充実

適切な農地・漁場利用の推進と優良農地・漁場の確保

- ・ 農地、漁場の権利移動の調整などによる中核的な担い手への農地、漁場の利用集積
- ・ 農地、漁場の集団化など効率的な農地・漁場利用の推進
- ・ 多様な担い手の農水産業参入や、町民農園・町民漁場の開設など、農地や漁場の有効利用の推進

農水産業経営の体質強化と安定

- ・ 農業にあっては新たな作物の導入、水産業にあっては新たな栽培漁業の振興など経営の複合化やアグリ&マリンビジネスの取り組みなどによる経営の多角化
- ・ 経営の安定化に資する農水産業資材の調達コストの低減に向けた取り組みの推進
- ・ 豊浦の実態に即した経営安定のための新制度の実現に向けた取り組みの推進
- ・ 経営の発展や安定に向けた金融対策等の推進

農水産業の経営を支援する組織の育成と多様な経営体による地域  
農水産業のシステム化

- ・労働負担の軽減や機械経費の削減等に向けた、新しい経営支援組織の育成
- ・農水産業団体の運営基盤の強化と機能の充実
- ・中核的な農水産業者や農水産業法人、新規参入者や高齢者など多様な経営体の協働<sup>\*</sup>による農水産業全体としてのシステムづくり

[用語解説] **協働**：住民・行政・企業など複数の主体が、対等な立場でそれぞれの特性を認め合い、活かしながら、特定の課題の解決など、共通する一つの目的に向かって、協力して働くこと。

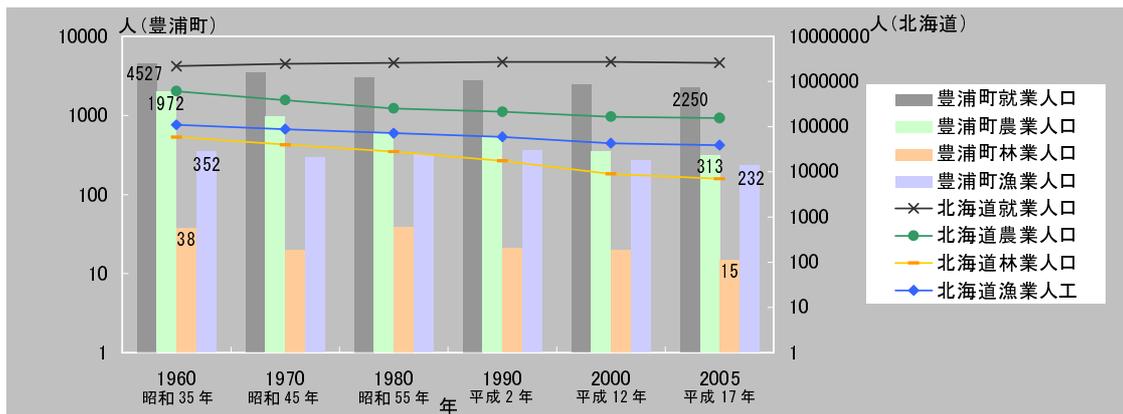
## 2 産業づくりへの取り組み

### (1) 産業づくりの課題

北海道は、昭和 25 年(1950 年)北海道開発庁の誕生にあわせ、今日まで「農業生産基盤の拡充強化」、「農林水産業の生産性強化」が推進され、日本の食料基地としての位置づけがなされてきました。そして、平成 10 年(1998 年)からの第 6 期北海道総合開発計画では、北海道の重点施策として「地球規模に視点を置いた食料基地を実現する」とあります。

しかし現実的には、既に整備されている基盤や多く残る耕作可能地、そして豊かな海に囲まれた条件にも関わらず、1 次産業の担い手不足という課題に直面しています。

今世紀の半ばにはアジアを中心に食料危機の時代がやってきます。これからは、豊浦町をはじめ北海道の農漁村が中核となり、株式会社の農水産業への参加や地域の団体が連携して事業にあたる LLP※(有限責任事業組合)、LLC※(合同会社)の設立など、新たな発想を持って「新生食料基地・北海道」づくりを目指さなければなりません。そのためにも、農水産業の担い手づくりが最大の課題となります。



現在は・・・



[用語解説] LLP : (Limited liability Partnership) リミテッド・ライアビリティ・パートナーシップと称し有限責任事業組合と訳す。

LLC : (Limited liability Company) リミテッド・ライアビリティ・カンパニーと称し合同会社と訳す。

LLP, LLCの何れの、起業や個人が各々の能力を提供しあって共同事業を行うための新しい形態の事業体であり、共同開発、産学連携、ITや金融の専門技能を持つ人材により共同事業や高度サービスなどの促進し、地域経済活力の向上に資することが期待されている。

## (2) 産業づくりへの取り組み

### ① 安全・安心な 「食」のシステムづくり

■ 豊浦食品に対する消費者の信頼を確かなものにするため、人々の生命と健康を支える「食」の原点に立ち返り、「安全・安心」を基本とした豊浦ならではの「食」づくりを目指し、消費者をはじめ生産者や流通・加工関係者など町民あげて「食」の安全・安心を確保していく気運の醸成や体制づくりを進めます。また、道が「安全・安心」そして地域のこだわり食品として定めた「道産食品独自認証制度」等の獲得を図るなど、ブランド商品の確立を目指します。また、広域的な高度事業施設との連携などにより、トレーサビリティ・システムの強化を図り、「豊浦産食品安全・安心フードシステム」の構築を積極的に進めるものとします。

### 安全・安心な【食づくり】のシステムづくり

- ・安全・安心を基本とした優れた品質特性を評価する地域における独自認証制度の確立
- ・ホームページ等を通しての消費者への情報提供の推進
- ・品目ごとの生産、製造加工から流通に至る生産履歴情報を的確に提供するためのトレーサビリティ・システムなどの整備・普及
- ・食品の適正表示の徹底と監視・指導体制の強化
- ・消費者の食品に関する正しい知識の習得や、店頭などにおける食品表示などの確認

### 安全な食品づくりに向けた取り組みの推進

- ・食品の安全性や品質の向上、個性化につながる食品生産、製造加工技術等の研究開発の推進
- ・食品の生産、製造加工、流通段階におけるHACCP（ハサップ）<sup>※</sup>や、その考え方を取り入れた衛生管理システムの導入

[用語解説] **HACCP** : (Hazard Analysis and Critical Control point) ハサップ、原料の受け入れから製造・出荷までの各工程において、健康に害を及ぼす可能性をチェックし、対策を立て、特に重要な工程について集中的な衛生管理を行う事により、安全性を高める食品衛生管理システム。

②

消費者のニーズに  
応える「食」の生産と  
提供

■安全・安心で良質な食料を消費者の理解の得られる価格で安定的に生産・提供していけるよう、生産性や品質の向上などに向けた新たな技術の開発・普及や、地域の実情に即した生産基盤の計画的な整備、付加価値の高い食品づくりや販路拡大に向けて積極的に進めていきます。

消費者ニーズに応える農水産業生産の推進

- ・消費者の安全・安心などのニーズに応えるクリーン農水産業や有機畜産の積極的な推進
- ・消費者や実需者の多様なニーズを踏まえた農水産物の計画的かつ安定的な生産・供給
- ・安全・良質など農水産物の評価を高める生産技術の高位平準化
- ・消費者の信頼確保に向けた品質検査の推進

農水産物の安定生産に向けた基盤づくり

- ・地域の実情に即した安全で高品質な農水産物の安定生産に向けた生産基盤の整備
- ・直営施工の導入などによる柔軟で低コストな基盤整備の推進
- ・高品質・良食味な農水産物の効率的・安定的な生産に向けたITの活用

安全・良質・低コストなど競争力を高める技術の開発と普及

- ・安全・安心で収量や品質の向上を目指した栽培管理技術などの開発
- ・農水産物の品質や機能性に関する評価法の策定や品質保持のための貯蔵・輸送技術の開発
- ・効率的な試験研究体制の検討・整備
- ・地域の課題に迅速に対応できる普及指導活動の展開

農水産物の付加価値を高める加工や販売の推進

- ・安定的・継続的な農水産物の供給に向けた雪氷利用等による貯蔵・出荷調整や広域的な産地の形成、広域連携を視野に入れたリレー出荷<sup>\*</sup>等の推進
- ・道産食品の独自認証制度の活用などによる農水産物や加工品の販路拡大
- ・食卓を豊かにする新たな加工食品を提供するための商品開発力や技術力、販売力の向上
- ・農水産物の差別化、高付加価値化に向けた販売戦略の構築

[用語解説] **リレー出荷**：圏域複数産地が連携しながら、出荷時期などを調整し、商品を安定的かつ継続的に供給する出荷体制。

③

地産地消の強化

■農業や漁業と観光など関連産業との結び付きを一層強めながら、地元でとれたものを地元で消費する「地産地消」、食の安全や大切さを教え学ぶ「食育」、さらには、北海道に合った「スローフード運動<sup>\*</sup>」などを積極的に展開することにより、食卓と生産現場、都市と農漁村との距離を縮め、消費者と生産者とが農水産業を守っていくという共通認識を醸成しながら、健康で豊かな食生活を築くとともに、フード・マイレージ<sup>\*</sup>の縮小による環境に対する負荷の軽減や、わが国の食料自給率の向上に貢献します。

スローフードの推進など「愛食運動」の総合的な展開

- ・地産地消や食育、地域に根ざした食文化の形成など地域に合ったスローフードを進める「愛食運動」の推進
- ・豊浦ならではの食文化や食材についての情報発信
- ・おいしく食べる知恵と工夫を活かした新しい豊浦食文化の創造

健全な食生活をつくる「地産地消」の推進

- ・ホテルや旅館等の観光、外食産業や食品加工業など関連産業における農水産物の積極的な活用

消費者に対する「食育」の推進

- ・学校給食や農水産業体験学習の活用などによる、農業・漁業の理解を深めるための子供たちに対する積極的な食育の推進
- ・食生活における無駄・廃棄の減少などに向けた取り組みの推進

消費者と生産者との結び付きの強化

- ・農水産業者の生産活動を支援するCSA<sup>\*</sup>やトラスト活動<sup>\*</sup>の展開
- ・生産者等による量販店や消費者への直接販売など「顔の見える関係」づくり

[用語解説] **スローフード運動**：いつでもどこでも同じ味、同じものをという食の画一化などファースト・フード的な考え方に對し、この土地にはこの食べ物や食文化、この家にはこの味といった食の多様性を守りつつ、食べ物をじっくりと見直す事を通じて、自分たちの暮らし方、家族との関係、自然環境、地域社会などを問い直そうという運動。

**フードマイレージ**：食料の生産地から食卓までの距離に着目し、なるべく近くでとれた食料を食べた方が、輸送に伴う環境汚染が少なくなるという考え方で、輸入相手国からの輸入量と距離を乗じて求める。このフードマイレージによる試算では、日本の食料供給が大きく外国に依存していることが算出される。

**愛食運動**：北海道で、「地産地消」、「食育」及び北海道に合った「スローフード運動」を総合的に推進するため、道民が身近な道産食材の良さを理解と愛用の、普及啓発を生産者団体、経済団体、消費者団体などと一緒に進めて行い行う取り組み。

**CSA**：(Community Supported Agriculture の略) アメリカ農業の新しい動きとして「地域が支える農業(漁業も含め)」の意。生産者が作った農産物を直接その地域の消費者に届けるシステムが主であるが、消費者も生産に参画し作業の一部を分担したり、また、消費者と生産者が契約し、代金を先払いし買い取るシステムも含む。

**トラスト活動**：本来、価値ある美しい自然や文化財などを市民の寄付金や寄贈等によって取得し、これを保全・維持・公開することで、次世代にのこしていくことを目的とした市民活動。農業分野においては、大豆トラストなどとして、CSA同様、消費者が国産品を買い支えると同時に、都市と農村を結ぶ新たな[絆]をつくりあげる。

### 3 環境づくりへの取り組み

#### (1) 環境づくりの課題

「山と海」、豊かな自然環境を背景に、優れた「食文化」を構築することで、まずは「訪ねてみたい町＝豊浦」の環境づくりを目指します。

そのためにも、「緑色濃き森」、「美しい田園風景」、「元気な港町」づくりなどがテーマとなります。そして何よりも「自然環境と調和し活気に満ちあふれた生産活動の場」を創っていくことが課題となります。

豊浦町は「北海道洞爺湖サミット」を開催するホスト町です。今後「新エネルギーの利活用に関わる調査」を充分に行い、町域に賦存するすべてのエネルギーを有効に活用し、サミット開催地として他に率先して新エネルギーの開発と活用に挑戦していかなければなりません。

#### (2) 環境づくりへの取り組み

##### ①

##### 環境と調和した 農業生産活動の推進

■環境にやさしいクリーン農業について、新たな技術の開発や普及による産地の拡大などを図ります。また、地域や生産者の実情に応じて、環境への負荷を最大限に軽減し、安全な食品を求める消費者の期待に応える有機農業や有機畜産の取り組みを進めます。

##### 環境にやさしいクリーン農業などの積極的な推進

- ・環境にやさしいクリーン農業技術の開発と普及
- ・有機性資源等の活用や土層改良などによる土づくりの推進
- ・クリーン農業に取り組む産地の拡大
- ・自給飼料の増産等による土地基盤に立脚した酪農・畜産の推進

##### 環境への負荷を最小限にした持続性の高い有機農業・有機畜産の推進

- ・安定的な生産を確保できる有機農業技術の開発と普及
- ・有機農業の産地拡大に向けた取り組みの推進
- ・有機畜産を可能とする技術の開発

##### 廃棄物や副産物の適正な処理・有効利用などによる農村環境の保全

- ・家畜ふん尿の適正な管理・利用と必要な施設の整備
- ・農業生産活動にともなう農薬や肥料などの環境負荷軽減対策の強化
- ・バイオマスの効率的な利活用を図るためのシステムの構築
- ・間伐材の活用による木質ペレットの製造など他産業と連携した資源の有効活用の推進
- ・農業用廃プラスチックのリサイクルの推進

②

環境と調和した  
水産業生産活動の  
推進

■ 豊浦町の水産業は中小・零細な経営が多く、さらに魚価や製品価格の低迷という厳しい環境下にあります。明日の担い手を養うためにも、クリーンな水産の町を目指し、環境への負荷を最大限に軽減し、安全な食品を求める消費者の期待に応えていかなければなりません。そのためにも衛生管理の向上に重点をおいた供給基盤の整備を進めるとともに、漁港については、漁業生産活動の基地として、より効率的な機能整備を進めるものとします。

水揚げから加工に至る品質管理や衛生管理の高度化

- ・ 豊浦水産物のトレーサビリティ・システムの導入や、地域における水揚げから加工、流通に至る衛生管理体制域・HACCPづくり
- ・ 小規模・零細な漁業者や水産加工業者が共同して進める品質・衛生管理の高度化の促進
- ・ 食中毒の原因となるウイルス等に関するモニタリング体制づくり

漁業生産活動や水産物流通の拠点となる漁港・流通加工施設の整備

- ・ 地域の現有施設における衛生管理の向上に関する改善
- ・ 衛生管理の高度化、作業の安全性や効率性の向上などに配慮した漁港や荷さばき施設等、生産基盤の整備
- ・ 流通加工施設の整備や広域的な流通加工の拠点づくり

③

省エネルギー事業の  
展開と新エネルギーの  
開発

■ 今後、省エネルギー事業展開を急ぐとともに、豊浦町の自然条件や資源を活かして、風力、太陽光、バイオマス、雪氷などの再生可能な新エネルギーの開発と導入に積極的に取り組みます。

- ・ 公共施設を中心にファシリティマネジメントの実施
- ・ 「地域新エネルギービジョン※」の推進と事業化
- ・ 実践ならびに実用可能なものからの取り組み

[用語解説] 新エネルギービジョン：新エネルギーの導入の促進を図ることを目的とした地域新エネルギー計画のこと。NED（独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機）は、自治体の策定に対し助成を行っている。